

## 3-10 遊園地・テーマパークの財務診断

執筆担当：後藤昭洋

### 1. 遊園地・テーマパーク業界の基本情報

#### (1) 遊園地・テーマパーク業界の産業分類

遊園地・テーマパーク業界は、娯楽業の公園、遊園地の区分に含まれます。

##### 8052 遊園地（テーマパークを除く）

各種遊戯施設により娯楽を提供する事業所。

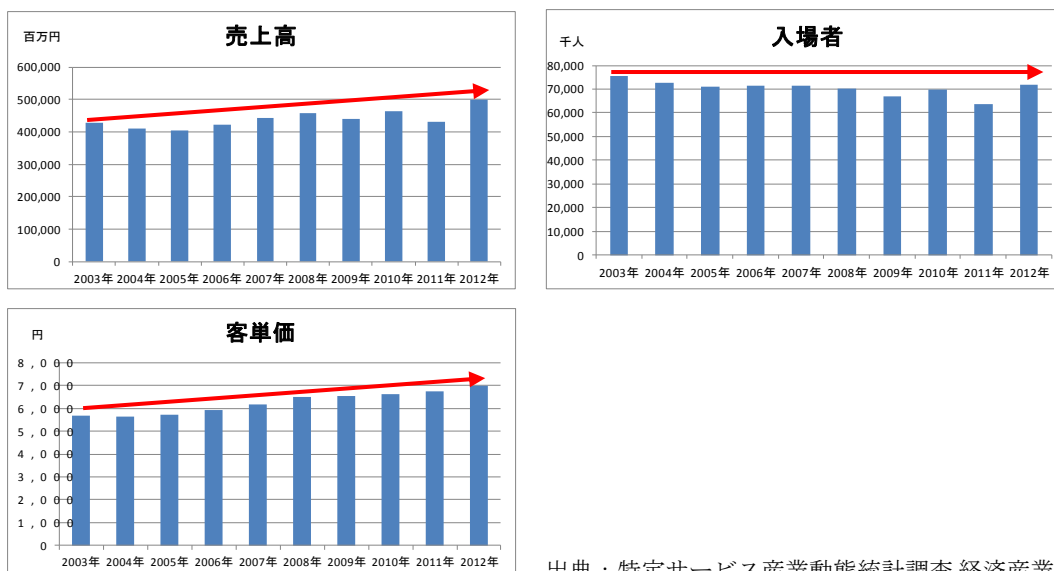
##### 8053 テーマパーク

文化、歴史、科学などに関する特定のテーマに基づき施設全体の環境づくりを行い、各種遊戯施設により娯楽を提供する事業所。

#### (2) 遊園地・テーマパークの市場概況 - 売上高、入場者数、客単価の推移 -

2012年の市場規模は5003億円でした。2011年に対しては+16.3%の増収、過去10年を見ても増収傾向です。入場者数は2012年間で70百万人でした。入場者数は、2008年（9月からのリーマンショックによる景気低迷）、2011年（東日本大震災）の特殊与件があった年を除くとほぼ一定でした。また、客単価は継続して上昇していました。

<遊園地・テーマパークの市場合計の売上高、入場者数、客単価推移>



#### (3) 遊園地・テーマパークの売上高ランキング

企業別の売上高を見た場合、業界1位の東京ディズニーリゾートの売上高は2013年度で3413億円で、市場全体の6割を超えています。第2位のユニバーサル・スタジオ・ジャパンの売上高は821億円で、市場全体の1割を超えています。こちらの2社はともに毎年売上を伸ばしています。その他売上高上位企業を見た場合でも、

トップ10の企業の内、8社が2012年度に対して増収をしています。東日本大震災前の2011年度に対しても6社が増収をしています。

<遊園地・テーマパーク経営企業 売上高ランキング> (単位：百万円)

企業名	パーク名	所在地	決算期	2011年度(A)	2012年度(B)	2013年度(C)	C/B-1	C/A-1
1 (株)オリエンタルランド	東京ディズニーリゾート	千葉県	3	306,273	312,996	341,327	9.1%	11.4%
2 (株)ユー・エス・ジェイ	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	大阪府	3	66,069	72,693	82,127	13.0%	24.3%
3 (株)東京ドーム	東京ドームシティ	東京都	1	55,970	51,222	57,055	11.4%	1.9%
4 (株)ナムコ	ナムコ・ナンジャタウン	東京都	3	49,925	50,381	48,025	-4.7%	-3.8%
5 長島観光開発(株)	ナガシマリゾート	三重県	2	26,042	25,580	26,014	1.7%	-0.1%
6 (株)モビリティランド	鈴鹿サーキット	三重県	3	26,157	24,885	24,441	-1.8%	-6.6%
7 富士急行(株)	富士急ハイランド	山梨県	3	23,467	23,447	24,206	3.2%	3.1%
8 ハウステンボス(株)	ハウステンボス	長崎県	9	13,198	16,693	21,629	29.6%	63.9%
9 (株)よみうりランド	よみうりランド	東京都	3	14,333	14,548	15,935	9.5%	11.2%
10 加森観光(株)	ルスツリゾート	北海道	3	15,614	13,600	14,300	5.1%	-8.4%
11 フェニックスリゾート(株)	フェニックスリゾート	宮城県	3	9,447	9,646	9,657	0.1%	2.2%
12 大江戸温泉物語(株)	東京・お台場大江戸温泉物語	東京都	9	6,876	7,533	-	-	-
13 (株)アワーズ	アドベンチャーワールド	大阪府	5	7,155	6,695	-	-	-
14 (株)横浜八景島	横浜・八景島シーパラダイス	神奈川	3	5,910	6,160	5,967	-3.1%	1.0%
15 (株)サンリオエンターテイメント	サンリオピューロランド	東京都	3	6,075	6,023	-	-	-
16 泉陽興業(株)	よこはまコスモワールドほか	大阪府	4	6,138	5,975	-	-	-
17 グリーンランドリゾート(株)	グリーンランド	熊本県	12	4,388	4,670	-	-	-
18 日和山観光(株)	城崎マリンワールド	兵庫県	3	4,120	4,429	4,469	0.9%	8.5%
19 蒲郡海洋開発(株)	ラグーナ蒲郡	愛知県	3	3,997	4,361	-	-	-
20 (株)名鉄インプレス	日本モンキーパーク	愛知県	3	4,111	4,144	4,257	2.7%	3.5%

出典：遊園地・テーマパーク経営企業実態調査 帝国データバンク、各社財務諸表 単体ベース

(4)遊園地・テーマパークの経営の特徴

①1 つ目の経営の特徴は、装置産業であり、かつ、労働集約型産業である点です。遊園地・テーマパークを運営するためには、乗り物や見るものなど遊ぶ設備や、飲食設備、にぎやかな演出など、常に顧客を楽しませる設備への投資を実施しています。同時に、安全性や快適性を維持するための設備メンテナンスに継続的に資本を投入しています。そして労働集約型産業を支える人材への投資も実施しています。楽しさやくつろぎを求め遊園地、テーマパークに訪れる顧客に対しての接客サービスレベルを高度な水準で維持し、また、それを高めることが必要とされます。そのための、採用教育などの「人（従業員）」に対する継続的な資源配分をしています。

②2 つ目の特徴は、技術の進歩とともに、顧客に対して、新しい価値（楽しさ、ワクワク感）を提供し続けている点です。これまで日本の市場に無かったものや、日本一、世界一の機能を持ったアトラクションが次々と産み出されています。

<遊園地・テーマパークでの主なアトラクションやサービスの開始年表>

1983年	東京ディズニーランド開園
1994年	花屋敷：世界初の3Dサウンドアトラクションのお化け屋敷開設
1997年	東京ディズニーランド：ハロウィンパレード開始
1998年	八景島：当時世界最高地点(107m)からのフリーホール「ブルーフォール」導入
2000年	初のディズニー直営ホテル（アンバサダーホテル）開業
2000年	ナガシマスパ：日本一長く・高い(2.5km、最高点97m)「スチールドラゴン2000」導入
2001年	ユニバーサルスタジオジャパン開園

2001年	東京ディズニーシー開園
2003年	東京ドーム ラクーンA開業
2003年	ユニバーサルスタジオジャパン：「4Dシネマ」導入
2008年	読売ランド：日本初のバンジージャンプのビデオ撮影導入
2008年	ディズニー4つ目の直営ホテル（ディズニーランドホテル）開業
2009年	ユニバーサルスタジオジャパン：「マジカル・スターライト・パレード」導入
2011年	富士急HL：落下角度世界一のローラーコースターでギネス認定された「高飛車」導入
2012年	グリーンランド：九州初の空中回転ブランコ型の「スターフライヤーゴクウ」導入

③3つ目の経営の特徴は、経営再建と撤退が顕著なことです。バブル経済崩壊後の失われた20年での経済の低迷に加え、2001年の東京ディズニーシー、ユニバーサルスタジオジャパンの2大テーマパークの開園により競争環境が激変しました。その結果、経営再建や閉園が多数発生してきました。

#### <遊園地・テーマパークでの主な閉園、経営支援の年表>

##### 2001年以降、閉園したテーマパーク

・ネオジオワールド東京ベイサイド	1999年開園、2001年3月閉園
・横浜ドリームランド（神奈川）	1964年開園、2002年2月17日閉園
・向ヶ丘遊園（神奈川）	1927年開園、2002年3月31日閉園
・小山遊園地（栃木）	1960年開園、2005年2月閉園
・倉敷チボリ公園（岡山）	1997年開園、2008年12月閉園
・多摩テック（東京）	1961年開園、2009年9月閉園

##### 現在、経営支援を受け、継続しているテーマパーク

・ハウステンボス（長崎）	2003年2月会社更生法の適用申請 野村プリンシパル・ファイナンスによる経営支援 2010年2月より㈱エイチ・アイ・エスによる経営支援
・レオマワールド（香川）	2000年休園。2004年営業再開。 現在、大江戸温泉物語グループに所属
・メルヘン村（佐賀）	2010年10月 ㈱肥前観光が民事再生法の適用を申請 ㈱新肥前観光で営業継続


## 2. 事例企業の概要

事例企業は、売上高ランキングの上位20社の中で、上場企業かつ遊園地・テーマパーク事業が全体に占める割合の高い㈱オリエンタルランド、㈱よみうりランド、グリーンランドリゾートの3社を選びました。

オリエンタルランドは、売上高の規模で業界1位の東京ディズニー・リゾートのテーマパーク・ホテルなどを経営・運営しています。

よみうりランドは、業界9位の規模で、遊園地の「よみうりランド」や川崎・船橋での公営競馬、船橋のオートレースなどを経営・運営しています。

グリーンランドリゾートは、売上高では業界17位の規模で、おもに九州の熊本で遊園地・ホテル・ゴルフ場の経営・運営をしています。

<b>企業名</b>	<b>(株)オリエンタルランド</b>	
本社所在地	千葉県浦安市舞浜	
拠点	テーマパーク 2、直営ホテル4、ショッピングセンター1、モノレール1	
事業内容	テーマパーク及びホテルなどの経営・運営	
設立／創業	1960年7月設立、 1979年4月(米)ウォルト・ディズニー・プロダクションズと「東京ディズニーランド」のライセンス、設計、建設及び運営に関する業務提携 1983年4月 東京ディズニーランド開園	
売上高 従業員数	連結 3955億円 単体 3413億円 連結 23349人 単体 16846人	
理念／社是	自由でみずみずしい発想を原動力に すばらしい夢と感動 ひととしての喜び そしてやすらぎを提供する	
方針／課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>i. コア事業(東京ディズニーリゾート)の持続的な成長 <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 新しい価値の創造</li> <li>(ii) マーケットの育成</li> <li>(iii) 投資・コストの効率化</li> </ul> </li> <li>ii. 長期持続的な成長への基盤強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 新たな成長への準備</li> <li>(ii) 株主還元</li> </ul> </li> </ul>	

<b>企業名</b>	<b>(株)よみうりランド</b>	
本社所在地	東京都稲城市矢野口	
拠点	遊園地 1、公営競馬場(川崎、船橋)、オートレース(船橋)、ゴルフ場4(東京よみうりカントリー他)、温泉施設1	
事業内容	遊園地、公営競技、ゴルフなどの総合レジャー事業の経営・運営。不動産事業。サポート・サービス事業。	
設立／創業	1949年9月川崎競馬倶楽部を設立、1964年3月読売ランド(遊園地)営業開始	
売上高 従業員数	連結 168億円 単体 159億円 連結 776人 単体 490人	
理念／社是	「大衆に奉仕する精神」 「顧客第一主義」	
方針／課題	<p>経営目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)「既存事業の売上げ堅持とローコスト化」</li> <li>(2)「所有地の最大限有効活用」</li> <li>(3)「新規事業の積極開発と人材活用」</li> </ul> <p>課題:</p> <p>所有地を効率的に活用し、新たな収益構造の確立と他社施設との差別化を図る。</p>	



<b>企業名</b>	<b>グリーンランドリゾート(株)</b>
本社所在地	熊本県荒尾市
拠点	遊園地 3(グリーンランド他)、スキー場1、ゴルフ場3、ホテル3
事業内容	遊園地・ホテル・ゴルフのレジャー事業の経営・運営、不動産事業、土木・建設資材事業、労働者派遣・保険代理店、都市ガス製造・供給・販売
設立／創業	1980年1月設立
売上高	連結 76億円 単体 47億円
従業員数	連結 464人 単体 186人
理念／社是	キャッチコピー「ココロをみどりでいっぱい。」の下にお客様に夢や感動を提供します。
方針／課題	遊園地:(1)グリーンランド独自のイベント開催、(2)四季折々の自然景観を織り交ぜた園内の空間演出、(3)細部まで行きとどいた安全管理 ゴルフ場:(1)イベントやインターネットによる情報発信強化、(2)コース改修、施設のリニューアル、(3)海外のゴルフ場との連携により海外からの顧客獲得 ホテル:(1)景観整備、(2)特色のある店作り、(3)省エネ化の推進



日本最大級の広大な敷地に配置された約80種類の多彩なアトラクション。九州唯一のサスペンデッドルーピング(宙吊り宙廻り)コースターやキッズ向けアトラクションなど、世代を超えた興奮と歓喜をご体感いただけます。また、遊園地に隣接するウォータープークでは、波のプールやウルトラフォール(滑り台)など、8つの魅力あるプールが夏休みを盛り上げます。



### 3. 事例企業の収益構造の特徴

事例企業3社の損益実績は次の通りです。

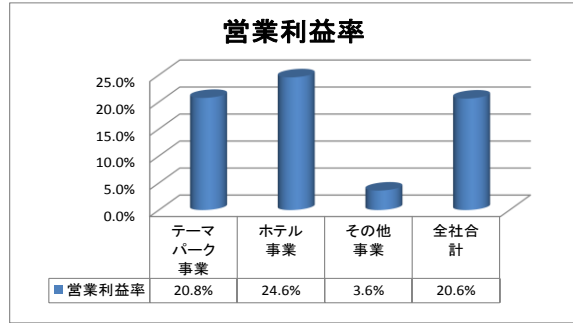
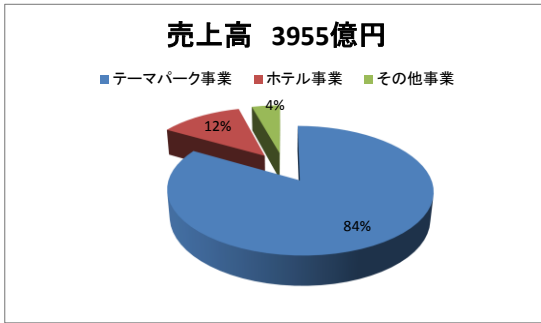
<連結損益実績>

(単位：百万円)

	株オリエントランド			株よみうりランド			グリーンランドリゾート(株)		
	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H22/12期	H23/12期	H24/12期
売上高	356,180	360,060	395,526	15,259	15,500	16,837	7,725	7,330	7,636
売上原価	255,088	248,456	265,946	11,652	11,900	12,215	6,862	6,588	6,799
売上総利益	101,092	111,604	129,580	3,606	3,600	4,622	863	742	837
%	28.4%	31.0%	32.8%	23.6%	23.2%	27.4%	11.2%	10.1%	11.0%
販管費	47,428	44,680	48,113	1,628	1,592	1,668	570	571	567
%	13.3%	12.4%	12.2%	10.7%	10.3%	9.9%	7.4%	7.8%	7.4%
営業利益	53,664	66,923	81,467	1,979	2,008	2,953	294	170	270
%	15.1%	18.6%	20.6%	13.0%	13.0%	17.5%	3.8%	2.3%	3.5%

オリエントランドは、平成25年3月期の売上高が3955億円。平成24年に対しては9.8%増収をしています。売上総利益率は32.8%で上昇傾向、一方で販管比率は12.2%と下方傾向を示しています。結果として営業利益は814億円、営業利益率は20.6%と業界においても事例企業との比較においても高い水準を示しています。

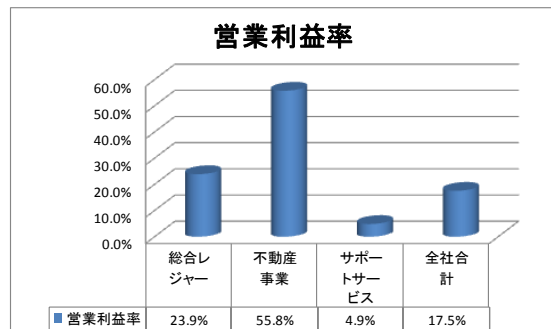
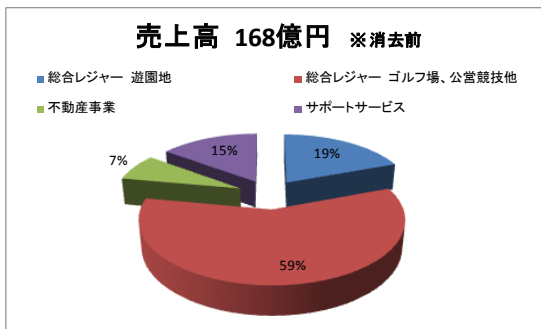
<平成 25 年 3 月期 オリエンタルランド 連結 セグメント別 売上高、営業利益率>



セグメント別に見ると、オリエンタルランドではテーマパーク事業で 20%を超える高い水準の営業利益率を上げていることがわかります。さらに特徴的なのは、全体の売上の 12%を占めるホテル事業でも 24%を超える利益率を示していることです。

よみうりランドは、平成 25 年 3 月期の売上高が 168 億円。平成 24 年に対しては 8.6%増収をしています。売上総利益率は 27.4%、販管比率は 9.9%です。営業利益は 29 億円、営業利益率は 17.5%と高い水準を示しています。

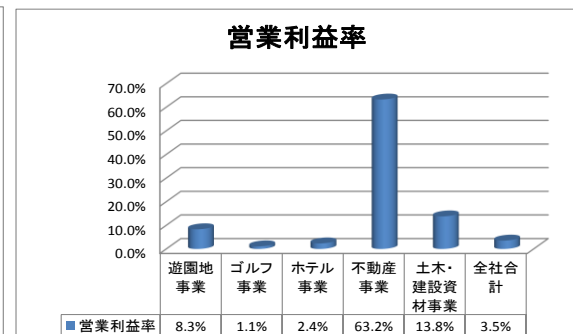
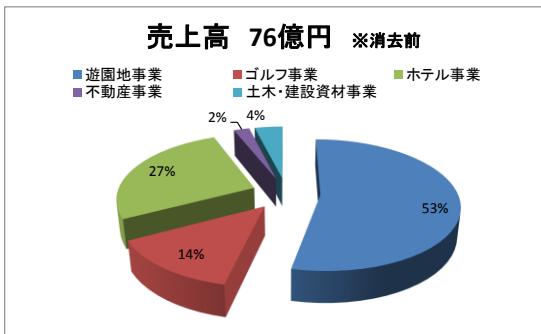
<平成 25 年 3 月期 よみうりランド 連結 セグメント別 売上高、営業利益率>



セグメント別に見ると、総合レジャーで 23.9%の営業利益率を示しています。遊園地の売上高は全体の 19%であり、全体の売上の 59%を占める競馬やオートレースの公営競技やゴルフ場が高い利益率に寄与していることがと想定されます。

グリーンランドリゾートは、平成 25 年 3 月期の売上高が 76 億円。平成 24 年に対しては 4.2%増収をしています。売上総利益率は 11.0%、販管比率は 7.4%でした。営業利益は 3 億円、営業利益率は 3.5%でした。

<平成 25 年 3 月期 グリーンランドリゾート連結 セグメント別 売上高、営業利益率>



セグメント別に見ると、遊園地事業で 8.3%の営業利益率を示しています。オリエンタルランド、よみうりランドの遊園地事業のセグメントに比べて低い利益水準です。売上の 14%を占めるゴルフ事業の営業利益率は 1.1%、同じく 27%を占めるホテル事業の営業利益率は 2.4%と遊園地事業よりも低い水準で、全体の利益率を下げている収益構造になっています。

#### 4. 事例企業の資産構造の特徴

次に示す表は、事例企業の資産構造です。

(単位：百万円)

	㈱オリエンタルランド			㈱よみうりランド			グリーンランドリゾート㈱		
	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H22/12期	H23/12期	H24/12期
現預金	25,886	66,512	88,585	6,196	6,166	4,558	314	291	314
債権等	27,174	56,158	48,023	1,007	1,239	1,205	339	387	357
在庫等	12,299	11,529	14,236	269	224	219	419	423	102
設備等	479,831	453,172	465,409	37,764	37,030	33,053	20,323	19,951	20,260
投資等	29,443	32,121	39,290	7,946	8,865	9,536	623	616	642
債務／引当	84,346	86,860	99,288	27,962	28,200	29,344	4,758	4,479	4,378
借入金	132,510	149,548	123,994	7,593	6,351	2,729	7,162	7,095	7,130
資本金	63,201	63,201	63,201	6,053	6,053	6,053	4,180	4,180	4,180
剰余金他	294,577	319,884	369,061	11,574	12,921	10,445	5,917	5,914	5,989
うち利益剰余金	232,322	256,094	298,400	7,620	8,478	5,438	1,213	1,208	1,274
総資産額	574,634	619,493	655,544	53,182	53,525	48,571	22,017	21,668	21,676

	㈱オリエンタルランド			㈱よみうりランド			グリーンランドリゾート㈱		
	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H22/12期	H23/12期	H24/12期
現預金	4.5%	10.7%	13.5%	11.6%	11.5%	9.4%	1.4%	1.3%	1.4%
債権等	4.7%	9.1%	7.3%	1.9%	2.3%	2.5%	1.5%	1.8%	1.6%
在庫等	2.1%	1.9%	2.2%	0.5%	0.4%	0.5%	1.9%	2.0%	0.5%
設備等	83.5%	73.2%	71.0%	71.0%	69.2%	68.1%	92.3%	92.1%	93.5%
投資等	5.1%	5.2%	6.0%	14.9%	16.6%	19.6%	2.8%	2.8%	3.0%
債務／引当	14.7%	14.0%	15.1%	52.6%	52.7%	60.4%	21.6%	20.7%	20.2%
借入金	23.1%	24.1%	18.9%	14.3%	11.9%	5.6%	32.5%	32.7%	32.9%
資本金	11.0%	10.2%	9.6%	11.4%	11.3%	12.5%	19.0%	19.3%	19.3%
剰余金他	51.3%	51.6%	56.3%	21.8%	24.1%	21.5%	26.9%	27.3%	27.6%
うち利益剰余金	40.4%	41.3%	45.5%	14.3%	15.8%	11.2%	5.5%	5.6%	5.9%
総資産額	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

総資産の額は、オリエンタルランドの 6,555 億円に対し、よみうりランドは 10 分の 1 以下の 486 億円、グリーンランドリゾートは約 30 分の 1 の 217 億円です。総資産の構成を見た場合、3 社ともに遊戯施設、飲食施設、物販施設、ホテル、土地などの有形固定資産を中心とした設備等の構成が 7 割以上です。

他に資産の部で特徴的なのは、オリエンタルランドの現預金です。現預金の構成比が年々上昇し、平成 25 年 3 月期では全体の 13.5%を占めています。好調な営業から生み出されるキャッシュが増加に寄与しています。また、よみうりランドの投資

等の比率が全体の 19.6%と他社よりも大きくなっています。こちらは投資有価証券の保有が主要因です。

負債の部では、よみうりランドの債務／引当が総資本の 60.4%を占めているのが特徴的です。主な内容はゴルフ場の入会時の預託金です。また、他の 2 社に比べるとグリーンランドリゾートの借入金の比率が高くなっています。

純資産の部では、オリエンタルランドの剰余金が 3,691 億円まで積みあがっている点が特徴的です。総資本の中では 56.3%を占めています。平成 25 年 3 月期に当期純利益が 514 億円と高収益を上げた結果、純資産が前年に対し 423 億円増加し、総資本比率では 4.7%増加しました。配当は平成 24 年に対し 1 株当たり 20 円増の 120 円（総額 91 億円）が実施されていますが、内部留保は増加しました。

## 5. 事例企業のキャッシュ・フローの特徴

次に示す表は事例企業のキャッシュ・フローの状況です。

(単位：百万円)

	㈱オリエンタルランド			㈱よみうりランド			グリーンランドリゾート㈱		
	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H22/12期	H23/12期	H24/12期
営業CF	74,327	90,327	91,982	3,518	2,860	4,407	627	384	633
投資CF	-25,218	-73,713	-45,377	-1,250	-1,090	-2,015	-129	-58	-371
フリーCF	49,109	16,613	46,606	2,268	1,769	2,392	498	325	262
財務CF	-60,971	-3,485	-34,515	-2,028	-1,809	-4,009	-710	-351	-236
CF期末残高	35,386	48,511	60,582	6,060	6,021	4,403	311	285	310
CFパターン	4	4	4	4	4	4	4	4	4

3 社ともに、①営業活動が順調、②将来のための設備投資も行っている、③余剰資金は有利子負債の返済に充てていて、株主への配当も実施されているという、優良会社に多いCFパターンを示しています。

オリエンタルランドでは、平成 25 年 3 月期に、好調な営業活動を背景とした 809 億円の税引き前利益の創出により営業CFが 920 億円となりました。投資CFは、「スタートアーズ」のリニューアルなどへの設備投資の実施やブライトンホテルの連結化に伴う株式と債務の取得などで 454 億円のマイナスとなりました。財務CFも、長期借入金の返済、社債の償還、配当金支払いなどを実施したことで 345 億円のマイナスとなりました。結果として期末の現金は 121 億円増加しました。

よみうりランドでは、平成 25 年 3 月期に、営業CFが 44 億円創出されました。投資CFは、子供向け屋内遊戯施設「キドキド」や新アトラクションの「スイーツカップ」などへの設備投資を中心に 20 億円のマイナスとなりました。財務CFでは、短期・長期の借入金の返済、配当金支払いを行ったことによる 40 億円のマイナスで、期末の現金は 16 億円減少しました。

グリーンランドリゾートでは、平成 25 年 3 月期に、営業CFが 6 億円創出され



ました。投資CFは、新アトラクションの「スターフライヤーゴクウ」などへの設備投資により4億円のマイナスとなりました。財務CFは、長期の借入金の返済、配当金支払いを行ったことにより2億円のマイナスで、期末の現金は微増でした。

## 6. 事例企業の経営指標の特徴

次に示す表は、各社の主な経営指標です。

		㈱オリエンタルランド			㈱よみうりランド			グリーンランドリゾート㈱		
		H23/3期	H24/3期	H25/3期	H23/3期	H24/3期	H25/3期	H22/12期	H23/12期	H24/12期
ROA(総資産利益率)	(%)	4.0	5.2	7.9	2.2	2.3	-5.9	0.5	0.3	0.6
経常利益率	(%)	14.8	18.4	20.4	13.9	14.0	19.6	2.5	1.3	2.7
総資本回転率	(回)	0.6	0.6	0.6	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4
自己資本比率	(%)	62.3	61.8	65.9	33.1	35.5	34.0	45.9	46.6	46.9
借入金依存度	(%)	23.1	24.1	18.9	14.3	11.9	5.6	32.5	32.7	32.9
流動比率	(%)	61.1	142.5	137.3	108.2	101.4	94.7	25.3	26.7	17.0

### ① 総資産利益率 (ROA)

オリエンタルランドが7.9%と高水準となっています。経常利益率が20%を上回る高い収益性に加え、総資本回転率が0.6回転で他社を上回る効率を示していることによります。

よみうりランドのROAは-5.9%と平成24年までの2%台から低下しています。これは当期純利益が28億円の損失となっているためです。平成25年3月期は営業利益、経常利益ベースでは黒字かつ増益を示しているものの、特別損失で保有ゴルフ場および遊園地施設の一部の減損損失を計上し、最終赤字となりました。その一過性の減損損失と件を除いてROAを試算した場合、平成25年3月期のROAは前期の2.3%を上回る2.7%の水準となります。

グリーンランドリゾートのROAは0.6%で3社の中ではもっとも低い水準です。経常利益率が2.7%を示しているように収益性が低いことが要因です。総資本回転率は0.4回転でよみうりランドを上回っています。

### ② 自己資本比率

オリエンタルランドが65.9%と最も高い安全性を示しています。

よみうりランドは34.0%、グリーンランドリゾートは46.9%と、オリエンタルランドには及ばないものの長期の安全性で問題になる水準ではありません。

### ③ 借入金依存度

グリーンランドリゾートが32.9%と残り2社と比較すると高い水準です。過去3ヶ年と比較するとほぼ同水準です。オリエンタルランドは18.9%、よみうりランドは5.6%です。

#### ④ 流動比率

グリーンランドリゾートが17%と低い水準です。流動比率が低水準となる要因は、流動負債に占める短期借入金の割合が高いためです。その短期借入金を除いた場合には、100%を超える流動比率になります。短期借入金は過去3ケ年を見ても毎年20億円を超える残高があり、平均金利も1%前半であることから、流動比率は低いものの、短期の安全性で問題になる水準では無いと分析しています。

## 7. 遊園地・テーマパーク業界の課題

遊園地・テーマパーク業界の課題は、リピート顧客の獲得です。

事例企業の3社の財務諸表から、売上の成長、収益性、バランスシートの状況、キャッシュフローの特徴などを見て来ましたが、事例企業3社ともに、リピート顧客を獲得するための戦略として、新規アトラクションの投入や既存アトラクションのリニューアルへの設備投資をし、遊園地・テーマパークでのサービスやイベントの活性化を実施していることが、結果として堅調な財務結果につながっていると見てとれます。また、遊園地・テーマパーク単独での集客に加え、ホテルや温泉施設など他のサービス施設との連携、旅行会社との連携もリピート顧客獲得に寄与しています。

これから先も業界内の競争環境は厳しく、また国内の少子高齢化が進み、雇用・所得環境も不透明な状況が想定される中で、遊園地・テーマパークに足を運ぶリピート顧客を獲得していくためには、財務構造を健全に保ち、遊園地・テーマパークの独自のテーマ・魅力をアピールするための設備と人（従業員）に対する投資を続けていくことが必要とされます。

以 上